

その他

東京医療保健大学医療保健学部看護学科の将来構想 「五反田 vision2030」実現に向けて教員が身に付けたい 力と課題 – FD 研修会後のアンケート分析から –

Faculty's desired skills and expected challenges towards the realization of the "Gotanda Vision 2030" by Division of Nursing of Department of Healthcare at Tokyo Healthcare University -Through analysis of the questionnaire done after Faculty Development Workshops-

岡田弘美 足立容子 佐々木美奈子 秋山美紀
松尾まき 伊東真理 前田のぞみ

Hiromi OKADA, Yoko ADACHI, Minako SASAKI, Miki AKIYAMA
Maki MATSUO, Mari ITO, Nozomi MAEDA



東京医療保健大学
TOKYO HEALTHCARE UNIVERSITY

〈その他〉

東京医療保健大学医療保健学部看護学科の将来構想「五反田 vision2030」 実現に向けて教員が身に付けたい力と課題 － FD 研修会後のアンケート分析から －

Faculty's desired skills and expected challenges towards the realization of the "Gotanda Vision 2030"
by Division of Nursing of Department of Healthcare at Tokyo Healthcare University
-Through analysis of the questionnaire done after Faculty Development Workshops-

岡田弘美 足立容子 佐々木美奈子 秋山美紀 松尾まき 伊東真理 前田のぞみ

東京医療保健大学 医療保健学部 看護学科

Hiromi OKADA, Yoko ADACHI, Minako SASAKI, Miki AKIYAMA, Maki MATSUO, Mari ITO, Nozomi MAEDA

Division of Nursing, Faculty of Nursing, Tokyo Healthcare University

要 旨：東京医療保健大学保健医療学部看護学科は、学科開設10年を機に将来構想「五反田 vision2030」を策定した。看護学科FD委員会は、五反田ビジョン実現に向けて教員個々の身に付けたい力と抱える課題を明らかにすることを目的にFD研修会に参加した看護学科教員を対象にアンケート調査を行った。その結果、五反田ビジョンの6つのピースの中で実現したいピースは、「グローバル化への対応と発信」7名と最も多く、次いで「技と心の育成」6名、「自由な発想と研鑽」5名であった。五反田ビジョン実現に向けての課題として、教育力の向上や時間、資金、人員の確保等が挙げられた。看護学科FD委員会は、実現したいと回答した人数が多かったピースの実現を促進する支援を検討すると共に、実現したいと回答した人数が少なかった「変革と創造」と「チームで地域共創」も実現できるよう、他学科との共同研究の推進や企業、行政及び地域住民との情報交換の機会を設ける必要がある。

キーワード：将来構想 五反田ビジョン 課題

Keywords：vision for the future, Gotanda Vision, challenges, Faculty Development Workshops

I. はじめに

私立大学に在籍する学生数は、大学生の73.7%を占めており¹⁾、私立大学は日本の大学教育を担う重要な教育機関と位置づけられる。大学進学率が年々上昇する中、私立大学には多様化する社会のニーズに応じた研究の推進と共に、そのニーズに対応できる人材の育成が求められている。一方で少子化による18歳人口の減少を背景に、大学は受験生・入学生確保に向け、国公立、私立を問わず大学の独自性を明文化したビジョンの制定を進めている。特に私立大学は、安定した経営を行うため中長期的な学内外における環境変化の

予測に基づく、適切な将来ビジョンの検討と策定が求められている²⁾。

東京医療保健大学（以下、本学）においても、開学10年を機に2017年10月に東京医療保健大学ビジョンが公表された。開学当初より設置されている医療保健学部看護学科（以下、看護学科とする）も10年目を迎え、次の10年後を見据えた目指す方針と行動を表明する看護学科独自の将来構想「五反田 vision2030（以下、五反田ビジョンとする）」を策定した。大学制度の理念・目的・役割を実現するために必要な「教授団の資質開発」³⁾を担う、看護学科FD委員会では、五反田ビジョン実現に向けて教員個々の身に付けたい

力と抱える課題を明らかにし、今後の支援を検討する必要があると考えた。そこで、アンケート調査を行い、その結果を検討したので以下に報告する。

II. 五反田vision2030の概要

2015年3月、開学10周年を向かえ2016年度教授会目標として「将来構想の具体化」が挙げられた。2016年9月、FD研修会において将来構想検討を行い、教授会で検討された将来構想案と東京医療保健大学医療保健学部看護学科の強み・弱み・取り巻く状況に関するSWOT分析の結果を踏まえ、職位ごとのグループワークにおいて具体的な将来構想について討議した。討議内容から学科長、学科長補佐が中心となり五反田ビジョンの骨子案が作成された。2017年9月、FD研修会において骨子案が提示され、グループワークにおいて協議が行われた。その後、学科長が6つのキープレーズ案を作成し、教授会での諮問、各領域からのフィードバックを踏まえ学科長補佐を中心に洗練された。2018年3月、FD研修会において五反田ビジョン最終案を諮問の上、策定・公表された。

看護学科教員は、地域医療を担う多職種と連携・協働し、人々の生活を大切に考え、よりよい地域づくりに参画できる看護職を育てること、そして、答えのない問いをあきらめず考え続ける力、身につけた知識・技術を応用・発展させる力、困難な課題にもしなやかに対応できる力を身に付けられる看護職を育てること目標として五反田ビジョンに取り組むため、「地域への愛 へこたれない力を育てる」というキャッチコピーを掲げた。6つの目指すべき方向性は、さまざまな要素により五反田ビジョンを支えていくこと、6つのピースの外にも新たなピースをはめる余地があること、そして、看護学科が「開かれた」学科であるイメージを表すことからパズルのピースに象られた(図1)。



図1 五反田ビジョン2030 イメージ

各ピースに沿って、本学科が目指す方向性は以下の通りである。

1. 変革と創造：本学科は、超高齢社会の変化するニーズに先手で対応し、よりよい看護と提供システムを創造します。
2. 技と心の育成：本学科は、高度な知識・技術・実践力を備えた“へこたれない看護職”を育成します。
3. 生涯学習の支援：本学科は、卒業生も学び続けられるプラットフォームとして、生涯学習を支援します。
4. グローバル化への対応と発信：本学科は、世界を視野に入れ、日本の看護の価値を追究し、発信していきます。
5. チームで地域共創：本学科は、多職種の仲間と共に学び、共に成長しながら、地域を愛し[1人1人の人生、人々の生活、開かれたケアの場を大切に]、よりよい地域づくりに主体的に参画します。
6. 自由な発想と研鑽：本学科は、自由な発想・議論に基づく学科運営を目指します。

III. 調査方法

2018年9月に五反田ビジョンの6つのピースに対し、教員が実現したいことを語ることを目的に夏季FD研修会が開催された。事前にFD研修会に関するお知らせをメール配信し、研修会でディスカッションしたいピースをFD委員会担当者に提出するよう説明した。FD委員は提出された希望をもとに各ピースのグループ分けを行った。各ピースのディスカッションでは教授会メンバーがファシリテーターを務めた。1セッション40分間のディスカッションをメンバーを入れ替えて3セッション実施した。FD研修会終了後に参加した看護学科教員を対象にアンケート調査を行った。アンケート用紙は委員会より看護学科教員にメールにて配信し、記載の上、返信してもらい回答を得た。質問内容は「実現したいピースと具体的内容」「五反田ビジョン実現に向けての課題」「実現するために身に付けたい力と必要な資源」「取り組むことが難しいピースとその理由」とした。回答内容は東京医療保健大学紀要に個人が特定されない形で開示する旨をアンケート用紙に記載し、回答の提出をもって同意とした。

IV. 結果

FD研修会の参加者38名にアンケートを配信し、回答者は24名(63.2%)であった。職位別回答者数は、

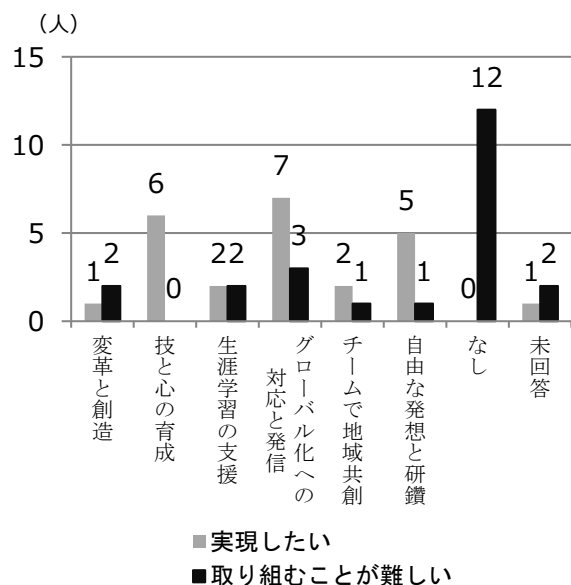


図2 ピース別人数 (n=24)

講師が7名 (29.1%)、と最も多く、次いで教授5名 (20.8%)、准教授4名 (16.7%)、助教4名 (16.7%)、助手4名 (16.7%) であった。

1. 実現したいピース及び取り組むことが難しいピース

五反田ビジョンの6つのピースの中で、実現したいピースは、「グローバル化への対応と発信」7名と最も多く、次いで「技と心の育成」6名、「自由な発想と研鑽」5名、「生涯学習の支援」2名、「チームで地域共創」2名、「変革と創造」1名であった (図2)。取り組むことが難しいと考えているピースは、「なし」と回答したものが12名と最も多く、次いで「グローバル化への対応と発信」であった。「ない」と回答した理由を自由記述で得たところ、「努力することが重要であり、試みることで少しずつ達成していけると考えるため。」「全員で力を合わ

せればできないことないと考える。ただ力を合わせるのではなく、それぞれの得意とすることで力を発揮すれば可能であると考え。」「実現可能性を考えながら、できるところから取り組むしかないのではないか」であった (表1)。

2. 課題及び実現するにあたり身に付けたい力と必要な資源

五反田ビジョン実現に向けての課題は、「グローバル化への対応と発信」では教員個々の「英語力」の他、「海外講師招聘費用の調達」「教員用海外研修の実現に向けた費用の確保」といった資金が挙げられた。身に付けたい力として「技と心の育成」「生涯学習への支援」では教員個人の教育力の向上と具体的な教育方法の検討が挙げられた。必要な資源として「変革と創造」「生涯学習の支援」「グローバル化への対応と発信」「自由な発想と研鑽」では、時間、資金、人員の確保が求められていた (表2)。

V. 考察

本調査の回答率は約6割と低かった。回答内容について個人が特定されないよう公開することを説明したが、アンケート用紙には領域と氏名の記載が求められていたことが要因として考えられる。また、2018年度着任した教員には、五反田ビジョン策定までの経緯や6つのピースが抽出された過程や理由を理解することが難しく、五反田ビジョンの1つ1つのピースの目指す方向性を十分に理解されていなかった可能性がある。取り組むことが難しい理由として「ビジョンの意味を理解することが難しい」という意見も見られたため、2018年度以降に看護学科に着任する教員からも五反田ビジョンの理解を得るためには、五反田ビジョンと共に五反田ビジョン策定の目的とこれまでの経緯

表1 取り組むことが難しい理由

ピース	理由
変革と創造	・ビジョンの意味を理解することが難しい ・具体的介入が難しい
生涯学習の支援	・大学または学科等の組織的な取り組みが必要
グローバル化への対応と発信	・差し迫ったニーズが無い ・余裕がない ・養護教諭養成における国際的な視点からの取り組み自体が進んでいない現状
チームで地域共創	・「地域」を品川とした場合、地域からの自己の研究に対するニーズは低い
自由な発想と研鑽	・実習指導に費やす時間の増大や支援の必要な学生の増加により、自己研鑽の時間確保が困難
取り組むことが難しいピースは無い	・努力することが重要であり、試みることで少しずつ達成していけると考えるため ・全員で力を合わせればできないことないと考える。ただ力を合わせるのではなく、それぞれの得意とすることで力を発揮すれば可能であると考え ・実現可能性を考えながら、できるところから取り組むしかないのではないか

表2 実現したい具体的内容と課題及び実現するにあたり身に付けたい力と必要な資源

ピース	実現したい具体的内容	課題	身に付けたい力と必要な資源
変革と創造 技と心の育成	・ICTを用いた教育活動（特に、臨地実習にて） ・へこたれない力を育成する具体的方略の検討・実践 ・へこたれない力を育成するために実習の面談等を通して、学生の行いたい看護や将来像などを語る場の設定 ・へこたれない看護職の育成のために、失敗など色々な経験について、一緒に振り返を行い、経験をばねにできるような支援 ・失敗できる環境を作るため、臨床の理解を得られるよう調整することや学生が失敗を受け止め振り返られる支援 ・学生の看護に対する知的体力（自ら考える力、諦めずに取り組み続ける力、好奇心）の育成 ・学生と「対話」のできる授業	・財源の確保やセキュリティ ・学生が経験から学んでいけるような発問 ・自身の教育力 ・学生がしても良い失敗か否かの判断が難しい。 ・インシデント後の学生の振り返りで、起こった失敗にとどまらず今後に活かせる力に結びつけることが難しい。 ・大学教育を理解すること ・少人数のゼミ形式の授業における教員と学生、及び学生相互の信頼関係づくり ・学生が学んできたプロセスや現状についても共有し、教育内容や方法を洗練させていくこと	・ICTを活用できる環境（財源や機材の確保、ネットワークの容量拡大等） ・発問のスキルを身につける ・学生の思考を引き出す「聴き方」、看護職や看護の専門知識への関心を高める「伝え方」の研鑽 ・これまでのインシデントレポートを確認し、どのような失敗であれば学生のへこたれない力の育成につなげられるか検討する。 ・大学として行政を巻き込んでいくこと。 ・自分自身が1つ1つのピースについて学び、深めていくこと。そのための他者とディスカッションできる機会。 ・「対話」によって、学生の既成概念に「ゆさぶり」をかけるための仕掛けや工夫等、教材研究。 ・大学教育や看護基礎教育の内容、方法についてもっと考える機会 ・学生が興味・関心を持てるような授業力。 ・実績を積み上げて公開すること
生涯学習の 支援	・大学として提供する卒業後の研修の企画 ・在学中から生涯研鑽し続ける土壌を築く日々の授業での意識的な教育 ・大学－大学院がつながる学びの提供 ・教育研修センターの設立 ・「教える」をテーマに様々な対象への研修	・学部教育における、学生が「学びたい」「学び続けなければならない」と実感することができる体験や学びの機会の提供 ・人員とシステムの立ち上げ、自分の時間をマネジメントする、お金、ビジョンを共有する同志	
グローバル化 への対応と 発信	・定期的に海外から研究者や教育者を招聘し、教員・学生を対象としたセミナーの開催 ・国際学会での発表 ・英語での論文投稿 ・グローバルなナースの育成 ・学生、教員の英語力をサポートする体制づくり ・海外交流（交換留学、教員の海外研修）の場の拡大 ・多様な対象に対応できる力、また日本の看護を他国へ発信できる力をつけるために必要なことを検討	・海外講師招聘費用の調達 ・教員用海外研修の実現に向けた費用の確保 ・資金、人材の確保、時間 ・論文を英語で書くこと ・英語力 ・日本の看護を発信し続けること ・教員間の意識の違い	・海外研究者・教育者とのつながりを作れる研究成果を生み出す研究能力 ・英語力、日本語力 ・語学力、新たなことに取り組むための業務マネジメントする力、交渉力 ・在外研究を可能にするサバディカル制度の創設 ・翻訳に関する資金援助 ・英検、TOEIC等、一定スコアを達成した場合の受験料補助 ・語学力だけではなく、多様な対象を理解し受け入れる知識と柔軟性。 ・英語論文について、すぐにいつでも相談できる先生 ・学会（国内・海外）や研修に積極的に参加できるよう時間の確保や一緒に仕事をしている先生方の理解
チームで 地域共創	・産後ケア研究センターの充実 ・大学全体として、他領域の研究センターとしての参画 ・地域や行政との連携も学生教育の発展と共に拡大・充実	・地域や行政との連携の発展とともに、学生教育も発展させていきたいため、その教育内容について検討していくこと ・時間を作ることで、関係者となることが	・地域や行政と連携を図るための折衝力、折衝するためのデータ収集、分析力 ・限られた時間で効率よく成果を生み出せるように、メリハリをすること、特にまとめて考える研究時間（自己研鑽の時間）の確保。 ・関係者となつたことを躊躇しないですむバイタリティ
自由な発想と 研鑽	・自由な発想を持って、研鑽できる環境 ・日々できる工夫を業務に組み入れることを意識すること ・余白時間を捻出し自由な発想ができる心の余裕を持つ ・教員同士、気軽にディスカッションし、考えを深めていく機会を多く持てる環境 ・若手教員の研究活動について領域横断での情報共有や共同研究 ・自己の研究の発展と専門分野の知識更新 ・研究者としての研鑽の姿勢の保持	・様々な価値観の教員がいる中で、干渉主義の環境を保つこと ・教員の動線の中に気軽に話す場がない、図書館がない、などの環境 ・他領域の先生方と話す機会をほとんど持ていない現状 ・時間の確保 ・自身の仕事スタイルや余白時間の活用	・自分自身のモチベーションを高めていく（維持していく） ・週に1日自由になる日が保障される ・教育活動において、時間的ゆとりが持てるような支援 ・非常勤でない、常勤の実習助手の任用 ・研究時間捻出のための業務計画を立案し、領域内で共有し合う態度・風土づくりのための力 ・可能な限りペーパーレス化しフリーアドレススペースのような場所作り ・学内で会った時お互いに遠慮せず声を掛け合ってみる

や各ピースが抽出された背景について明文化することや、FD研修会等において定期的に進捗状況を共有し五反田ビジョンの目指す方向性を確認する機会を設ける必要があると考えられる。

各ピースに対し、実現したいと回答した人数に偏りがみられた。「技と心の育成」と「グローバル化への対応と発信」は、目指すゴールが明確であり、取り組みをイメージしやすいため回答が多かったと考えられる。特に「技と心の育成」は、本学科開設時より「へこたれない看護職」を育成することを目指してきており、多くの教員の理解が得やすいピースである。目指す目標が共有されている一方、課題の回答から実習や講義などさまざまな場面においてへこたれない看護職を育成する具体的な方略については、各教員が試行錯誤を繰り返していると推察される。看護学科として体系的にへこたれない看護職を育成するためのカリキュラムの整備とともに、教員個人の教育力の向上や昨今の学生理解に関する研修会や勉強会の開催が必要であると考えられる。また「グローバル化への対応と発信」は、五反田ビジョンの説明文により目指すゴールが明確であり、またその手段も想像しやすい。2018年度よりFD委員会として英語研修を実施しており、教員の海外に向けて発信する力を培う一助を担っている。引き続き、「グローバル化への対応と発信」のピース実現に向けて、継続的に支援を行う必要がある。

一方で、実現したいと回答した人数が少なかった

「変革と創造」については、超高齢化社会において、先進的技術をどのように看護に取り組むか、イメージしにくく具体的取り組みがあまり上がらなかったと考えられる。本学部は看護学科に加えて、医療情報学科と医療栄養学科を有する。特に今後は看護研究においても、ビッグデータ分析が行われていくことが予測され、医療情報学科と協働し新たな研究分野の創設や新たな価値の創造が求められる。現在は、他学科との共同研究は行われていないため、まずは各教員の研究テーマについて情報交換を行うとともに、共同研究に発展できるようディスカッションできる場を設けることが重要である。

「チームで地域共創」については、現在、既に実施されている活動に照らし、自分の持つ資源では同様の活動は難しいと判断し、具体的な取り組みが挙げられなかった可能性がある。また、2018年6月には、東京医療保健大学は品川区と保健・医療、教育・文化、福祉、産業振興、防災および街づくりの政策等における包括連携協定を締結した。既に実施している活動が品川区を中心としており、五反田ビジョンの示す「地域」の定義について明確ではないため、「地域」を品川区と理解している可能性がある。また、五反田ビジョンには「地域への愛、へこたれない力を育てる」というテーマがあるが、「地域への愛」が指す内容を理解することが難しいことも具体的な内容が少なかった要因として考えられる。領域や研究の専門分野によっては地

域と連携し、よりよい地域づくりに参画することが難しいと推察される。新たな地域との連携の在り方を模索できるよう、他大学、他学部成功事例の紹介や企業、行政及び地域住民との情報交換の機会を設ける必要がある。

尚、本調査はFD研修会参加者を対象としており、アンケート未回答者に加え、研修会欠席者もいるため、看護学科全教員の約5割の回答に留まる。そのため、看護学科全体の意見を抽出しているとは言い難い。また多くのピースにおいて、共通する課題として時間や人員、資金の不足が挙げられた。教員の資質開発を目的とするFD委員会の支援だけでは、限界があると考えられる。そのため、学内他部署との連携や学外の資源の活用を検討する必要がある。

文献

- 1) 文部科学省. 平成30年度学校基本調査. 2018. 平成31年1月18日アクセス. http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/kekka/k_detail/1407849.htm
- 2) 文部科学省. 私立大学等の振興に関する検討会議「議論のまとめ」(本文) 2017. 平成30年12月28日アクセス. http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/073/gaiyou/1386778.htm
- 3) 有本章. 大学教授職とFDーアメリカと日本. 東信堂 2005.